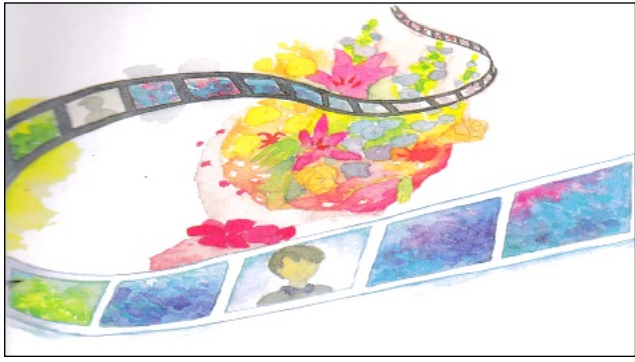






# 涙のビデオレター

## この世を去った同窓生からのエール



篠原鋭一 しのはらえいいち  
昭和19年生まれ。千葉県成田市・曹洞宗・長寿院住職  
NPO法人「自殺防止ネットワーク・風」理事長

▼篠原住職の寺は「自殺防止の駆け込み寺」と呼ばれ、「生きている間にお寺へ」と呼びかけ、24時間、相談の門戸を開いている。「明日死のうと思えます……」そんな電話が毎日3〜5件、土日には10件以上もかかってくる。今回は、『本当の話』（興山社）に掲載された篠原鋭一師の一文をご紹介します。



■県立M高等学校の卒業式が近付いたある日、ビデオカメラを手にした男

### そして最後のメッセージになった時、映し出された人物を見て、全員が絶句

#### 一年前に死んだA君

■私以外にも10人のビデオメッセージがあったと後日、報告される。

『お掃除おばちゃん』の愛称で人気があった事務職の女性のメッセージは、「苦しい時や悲しい時は、まず身の周りのお掃除をするの。お掃除をしている間に心のお掃除もできていて、生きる力がわいてくるからね」

卒業生が2年生の時、他校へ転勤された生物の先生の登壇には拍手が起こった。先生は、「何度も教えたよ



子生徒2人がやってきて告げた。うちの高校では毎年、卒業生にビデオレターを観てもらうことになっています。3年間、お世話になった方や、思い出に残っている人から3分間ほどのビデオメッセージをいただきます。卒業生全員で観るのです。今年は、3年間講演してくださった住職さんがノミネートされましたので、撮影させていただきます。私は笑いながら答える。

「ノミネートとは大きすぎだなあ。つまりビデオでの『送る言葉』だよ。身に余る光栄！喜んでお受けいたします」

「そこで私は2つのメッセージを語った。①人生はたった一度きり。それも片道切符の旅です。ならば各駅停車で行こう。特急に乗ったら通り過ぎてしまう風景を、しっかりと見ておきましょう。各駅停車の人生だからこそ身につくのです！」

「人生の主人公は自分です。『オシッコがしたくなった。でも、今、忙しいから誰か代わりに行って！』これはできない。人生も同じです。人生は自分が主人公となって生きていくものなのです。他人に代わってもらえませんか。人生は一人で生きられませんか。自分の力で生きていくと思ったら大間違い。多くの人や物にささえられ助けられての人生です。迷惑をかけて

「A君、私、生きていくことに決めた。今、死にたいくらい苦しいけど、A君の言葉聞いて、私決めた。私、死なない！生きていく！A君、誓うよ！私、生きていくからね！A君、ありがとう！」

突然、大きな拍手が起こった。その場に泣き崩れた彼女に向かって全員が精一杯の拍手を送っている。

彼女が3年間、ひきこもりと短期登校の繰り返しであり、一番苦しんでいたのは彼女であるのを知っているからだ。

「A君、私、生きていくことに決めた。今、死にたいくらい苦しいけど、A君の言葉聞いて、私決めた。私、死なない！生きていく！A君、誓うよ！私、生きていくからね！A君、ありがとう！」

報告のために我が寺にいられた先生が語る。「いやあ、泣かされました。いつもはさまざまな問題を起こすことで泣かされますが、このあいだは、彼らが温かい心を持っているんだというこ

「A君 私生きていく！」

■その時、ひとりの女子生徒が立ち上がり、大粒の涙を落として泣きながら叫んだ。

#### 編集後記

◆5年前、女性社員の過労死自殺でブラックが露呈した広告代理店・㈱電通だが、1970年代に「買わせる十か条」として「戦略十訓」を電通が提唱していたことを「存在しようか。……次に紹介しよう。①もつと使わせろ。②捨てさせろ。③無駄遣いさせろ。④季節を忘れさせろ。⑤贈り物をさせろ。⑥組み合わせで買わせろ。⑦きつかけを投じろ。⑧流行遅れにさせろ。⑨気安く買わせろ。⑩混乱を作り出せ：以上十訓は、企業の目的が「利益の最大化が全て」当時のものであり時代の隔たりを感じるが、近年のテレビコマーシャルを見ると、これを地で行っている感が強い。即ち、視聴者の欲望をそそり、大げさで嘘っぽい露骨な誘い文句を言い続ける素人役者や有名。また、「あつたらいいな」とうたい、無くてもない物を買わせることに長けている某製薬会社。◆私も様々な無駄遣いをしてきたが、歳と共に物欲は減り、還暦でジ・エンドの感が強い。週一の休日はもっぱら自転車の私。車も欲しくないが、高齢化社会は経済を育てないとの自家撞着もあり……。

「いやあ、泣かされました。いつもはさまざまな問題を起こすことで泣かされますが、このあいだは、彼らが温かい心を持っているんだということを実感し、うれしくて、うれしくて泣かされました」